

【取扱い厳重注意】

蒸気をうまく逃がしながら、その蒸気を水に戻して注水しているというシステムですから、それが生きているということは、逆に言うと、7メガ近辺の炉が安定して運転されているという認識しかないです。

○質問者 そうしたら、他方で、DDFPのことが、今、ここに書いてありましたので、DDFP、3号機については、これは、どういう認識だったんですが、これは使おうと思えば、使えるという。

○回答者 ですから、DDは、この前も1号のときに申しましたように、要するに逆止弁があって、圧力バランスで、相手側の圧力が高いときは注水できませんけれども、相手側の圧力が自分のときのポンプの圧力よりも下がれば注水できるというのが基本的な形ですから、そのDDの注水をしなさいという指示をした覚えは、私はないんです。ですから、発電の方でいろんな工夫をしていたんだと思うんですけれども。

○質問者 例えば1号機に関して言いますと、3月12日の未明、1時48分ごろなんですが、DDのポンプが不具合で動かなくなったというようなことがどうもあったみたいで、そういうようなポンプの故障とか、3号機のDDFPで、そういう要するに何か不具合か何かが発生して、DDFPがうまく機能しないと、そのDDの部分がですね、というようなことなんかは報告を受けたりなんかはしていましたか。

○回答者 1号機がDDがだめになったという話は聞いています。それで、3号機がどうだということについては、3号機はまだ大丈夫だという話は聞いていた。だけれども、それで注水しなさいだとか、そういう指示はしておりません。

逆に言うと、原子炉の圧力が落ち切るまでDDを動かしたって入らないに決まっているじゃないというだけの話です。

○質問者 あと、DDに関して言うと、水源がろ過水タンクということになっていると思うんですが、そこからずっと配管をつないでというところで、そういうところで、3月11日の夕方ごろに、ろ過水タンクのところに破断が、水漏れが配管のところのどこかに生じたということで、元弁を閉めるという操作を自衛消防隊の方でされていると思うんですが、この辺りは、その後、どうなったんですか。

○回答者 それで、結局、水源の議論のときに、要するに、今だからこそ海水注入したというのが事実として出てきていますけれども、いろんな検討をしているわけですよ、水源として、当然、ろ過水タンクの水源も考えているんです。消火栓がラインが生きていれば、いろんなところに消火栓が立っていますから、消火栓から防火水槽に水を満たして、その水を消防車で送ってやれば、淡水注入だってできるわけです。ですから、そんな検討はやっているんですけれども、結局、消火栓が漏れていて出ません、これからろ過水タンクの漏れがあるということだったら、水源が漏れているとまずいですから、まずは閉めると、それはいいんじゃないかということで、ここはOKした記憶がありますけれども、いずれにしても、どこか漏れているところを処置していつて、使えるラインをつくるしかない、そこはバラで指示はしていたんですけれども、何せ夜遅いだとか、電気もない、線量もだんだん上がってきているという中で、なかなかここも難しかった、実態として。

○質問者 それで、構造として、例えばあそこはろ過水タンクが2つあったと思うんですが、それで元弁を閉めた場合、素人考えでいくと、元を閉めてしまえば、結局、水がDDFPの水源としては、要するに、その先の方に、配管に残っている水ぐらいしか使うものがなくなっている。

○回答者 そこは、勿論そうですよ。だけれども、結局漏れていれば、そっちの方に水が行かなくなってしまうから、元弁を閉めるということは、ただ閉めるだけの話だけではなくて、閉めて、漏れて

【取扱い厳重注意】

いるところを直すだとか、要するにそこを確認して、水源をちゃんと確保するという意味で指示したわけなんです。ですから、それと、この DD ポンプと駆動のタイミングについては、もう記憶にないです、はっきり言って。

○質問者 例えば3月の12日とか13日とか、DDFPが1号機は、結局不具合でということなんでしょうけれども。

○回答者 ただ、極端なことを言うと、はっきり言いますよ、私の感覚では DD ポンプはほとんど期待していなかった、3号機も1号機も、はっきり言って、そんなに水源もないし、どうしようもないようなポンプに期待して水を入れるなんて、そんなことを考えるよりは、ちゃんと消防車で入れるという方が確実に入ると思っていましたから、みんな DD のことを言うんですけども、ほとんど私のイメージでは、こんなもの使い物にならないだろうという感覚しかなかったです。

○質問者 仮に DD を使っていこうということになれば、元栓を閉めた後に、配管を修繕して、それで開けてという話になってきますね。そういうような指示を、DD を駆動させてこれでやっっていこうというときに、そういう指示をさせて修繕させたという御記憶は。

○回答者 ないです。というか、漏れているということで、だったら、これから先もどこで水を使うかわかりませんから、ろ過水タンクの水位は確保しておくべきだと思って閉めさせましたけれども、さっき言ったみたいに、修理なんか、当時に、あの線量下でどうなっているかというチェックに行かせても行けないわけですよ。だから、逆に言うと、私は DD には余り期待しなかった。

ただ、後で話を聞くと、当直の連中は DD にかかなり期待していたところがギャップであるんですけども、私個人としては、DD なんか余り期待していなかった。ちょっとでも入れればいいなというぐらいにしか思っていないませんでした。

○質問者 そうしたら、3号機に戻りますが、3号機で HPCI が止まりましたと、それで、当時はパラでこそ 1MPa 未満という状況があるようですが、いずれにしても3時、4時のころにもう既に 4MPa になっているわけですから、FP ラインから水を入れようにしても入れられないという状況ですね。

このころ、当然、そうは言っても、この時点で注水も、それは FP での注水を考えておられたと。

○回答者 ここが、さっきから全然理解できないんです。ここの3月12日の12時45分から13日の5時までに3号機の圧力がこんなに落ちているじゃないですか、1MPa 割っているでしょう、これは全く記憶にないです。その後また 7.38 まで上がっているでしょう、物理的に下がったものが上がるなんて全然理解できませんもの。

○質問者 これは、例えば HPCI が止まってから水を全然入れていない状況になっていて。

○回答者 だから、逆に上がるはずでもの、下がりませんよ、絶対。

○質問者 下がるというのは。

○回答者 圧力が、HPCI が止まった状態でどうなるかという、と、どんどん逆に崩壊熱があつて、逃がし弁が開かない限り、圧力がこんなに落ちるというのは考えられませんもの。

○質問者 落ちるというのは、どこの部分を指して。

○回答者 ですから、原子炉圧力が21分の2ページで、上の方で 7.53 とかなっていますね、12時10分で、そこからいきなり 5.6MPa になって、1MPa 切っているじゃないですか、そこからまた5時で 7.3MPa まで上がるじゃないですか、この間に落ちているというのは、私の記憶からは全部欠落してい